

小 学 校

平成22年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題及び基本的な考え方	1
	1 主題設定の理由	1
	2 研究主題に関わる基本的な考えについて	2
	(1) 「自己の生き方を考えることができる探究的な学習」とは	
	(2) 「探究的な学習」の指導の工夫とは	
	3 研究仮説と内容	3
	(1) 研究仮説	
	(2) 研究内容	
	(3) 仮説検証の視点	
	4 研究構想図	4
II	研究方法	5
III	実践事例	6
	実践事例 1 本研究の基本実践例	6
	単元名 「未来のA市計画委員会」(第6学年)	
	実践事例 2 視点1 「他者との協同」に重点をおいた実践例	10
	単元名 「発信しよう日本を・受信しよう世界を」(第6学年)	
	実践事例 3 視点2 「情報の整理・分析」に重点をおいた実践例	12
	単元名 「とび出せ探検隊!安全、安心な町づくりを目指して」	
	(第3学年)	
	実践事例 4 視点3 「学んだことを振り返る学習活動」に	
	重点をおいた実践例	14
	単元名 「ラオス人民民主共和国から世界を広げよう」(第6学年)	
IV	研究の成果と課題	16
	1 研究の成果	16
	2 研究の課題	16

研究主題

自己の生き方を考えることができる探究的な学習の工夫

I 研究主題及び基本的な考え方

1 主題設定の理由

平成10年の学習指導要領の改訂において、小学校の教育課程に新たに総合的な学習の時間が創設された。自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育むために、各学校が、児童や学校、地域の実態等に応じ、横断的・総合的な学習など、創意工夫を生かした教育活動を行うこととなった。

今回の改訂は、平成20年1月の中央教育審議会の答申に基づいて行われた。この答申では、これからの社会では「自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる、積極的な『開かれた個』であること」が求められるとされ、総合的な学習の時間の課題が以下のように指摘された。

- ・大きな成果が見られる学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られる。また、小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組の重複も見られる。
- ・総合的な学習の時間のねらいを明確化するとともに、子供たちに育てたい力（身に付けさせたい力）や学習活動の示し方について検討する必要がある。
- ・補充学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備などと混同された実践が行われたりしている例も見られる。

これらを受け、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる『知識基盤社会』の時代においてますます重要な役割を果たすものである。」とされ、基本方針がまとめられた。

その基本方針を受けた今回の学習指導要領の改訂では、総合的な学習の時間の教育課程における位置付けを明確にし、各学校における指導の充実を図るため、総則から取り出し新たに第5章として位置付けられ、総合的な学習の時間の目標は以下の五つの要素で構成された。

- (1) 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- (2) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- (3) 学び方やものの考え方を身に付けること
- (4) 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- (5) 自己の生き方を考えることができるようにすること

改訂の趣旨を実現するには、問題解決的な活動が発展的に繰り返される「探究的な学習」とすること、他者と協同して課題を解決する「協同的」な学習とすることが重要である。児童が自らの学習課題を自分らしいやり方で解決する学習を、各教科で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用して進めることで、自己の生き方を考えるところに総合的な学習の時間の特質がある。そこで、本部会では、(1)から(4)の目標を達成し、総合的な学習の時間の目指す「(5)自己の生き方を考えることができるようにすること」を実現するためには、「探究的な学習の充実を図ること」に着目していくことが大切であると考えた。

2 研究主題に関わる基本的な考えについて

本部会のメンバーがこれまで実践してきた総合的な学習の時間を振り返ると

- インターネットや書籍による情報収集で終わり、意図的・計画的な協同的な学習を取り入れていないこともあった。
- 「課題設定」「課題追究」「まとめ・表現」の学習過程は経っていたが、発表会を開いて、学習が終了することが多く、「探究的な学習」として、成立していないことが多かった。
- 学習の結末が発表で終わり、「自己の生き方を考えること」まで達成はできていなかった。このことから、探究的な学習を成立させ、児童が自己の生き方を考えることができるようにしていかなければならないと考えた。

(1) 「自己の生き方を考えることができる探究的な学習」とは

まず「自己の生き方を考えることができる」を以下のように捉えた。

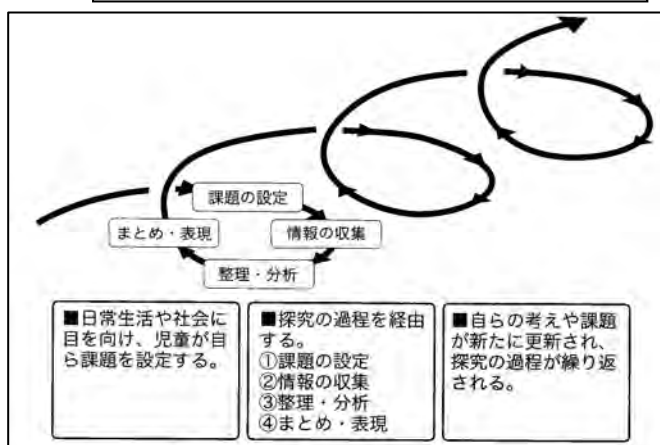
- ① 人や社会、自然との関わりにおいて、現在の自らの生活や行動のあり方を自覚し、吟味し、更新しようという動きを生み出すこと。
- ② 取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めること学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を深く実感すること。
- ③ ①、②を生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えること。

これらを踏まえ、児童が自信をもって現在の自分及び将来の自己について考える力の育成が必須であると考えた。自尊感情の高い人は、①自分をより肯定し、成功体験を強く認識する。②ストレスや危機にも強い。③「健全」「適応」「成長」におけるプラスの要素が良好である④過去をよりポジティブに捉え、未来に希望がもてる、などの様子が見られる。自尊感情・自己肯定感の高さは、健全な成長や適応、生きていくための心の基盤であるともいえ、それは学力にも関係してくるといえる。そのために、探究的な学習を充実させねばならないと考えた。

(2) 「探究的な学習」の指導の工夫とは

探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく下の図のような一連の学習の活動のことである。学習過程が以下になることが重要である。

▼探究的な学習における児童の学習の姿



【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。

【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。

【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。

【まとめ・表現】気付きの発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」から

3 研究仮説と内容

(1) 研究仮説

本研究を進めるに当たり、研究仮説を以下のように設定した。

① 他者と協同して問題を解決する学習活動や ② 収集した情報を言語により整理・分析する学習活動を充実させ、③ 学んだことを振り返る学習活動の工夫をすれば、子供は自分のよさや可能性に気付き自信をもって自分の人生や将来について考えていくことができるだろう。

(2) 研究内容

本部会では、以下の三つの視点の学習活動に重点をおいて研究を進めた。

視点1 他者と協同して問題を解決する学習活動

他者と協同して問題を解決することによって、一人で情報収集するよりも多様な情報を入手することができる。さらに、他者と協同することによって異なる視点から収集した情報を整理したり分析したりすることもできる。こうして他者と協同することで一人ではできなかったこともできるようになる。さらに自分の考えが広がったり深まったりし、お互いに認め合うようになっていく。その結果、探究的な学習の質が高まっていくのである。

視点2 収集した情報を言語により整理・分析する学習活動

収集した情報をそのまま引用して発表するだけでは、児童は自分で考えなくてもすんでしまう。児童は調べたことを発表するだけで終わってしまい、発表後に自らの考えや課題を新たに更新することはない。これでは探究の過程が発展的に繰り返されることはない。収集した情報を比較したり関連付けたりして、言語により整理・分析することで児童に自分の考えをもたせることが、探究の過程を発展的に繰り返していくために必要なのである。

視点3 学んだことを振り返る学習活動

以上2点の学習活動を充実させて探究的な学習の質を高めていく過程で、学んだことを振り返り、その結果を継続して蓄積していけば、子供たちは学んだことを自己と結び付けて自分のよさや可能性に気付き、自信をもつ。学習する前の自分と学習した後の自分を比較し、自分の成長に気付くこともできる。さらに、成長した自分を自覚することによって、自分をかけがえのない存在として捉えることができる。そして、自尊感情や自己肯定感が高まっていき、自信をもって自分の人生や将来について考えることができると考えた。

(3) 仮説検証の視点

① 人との関わり合いを通して、自分を大切にす協同的な学習

「東京都版 自尊感情測定尺度（小学生（第4学年以降）～高校生用）」の「関係の中での自己」に注目した、個々に対応した指導

② 収集した情報にふさわしい整理・分析

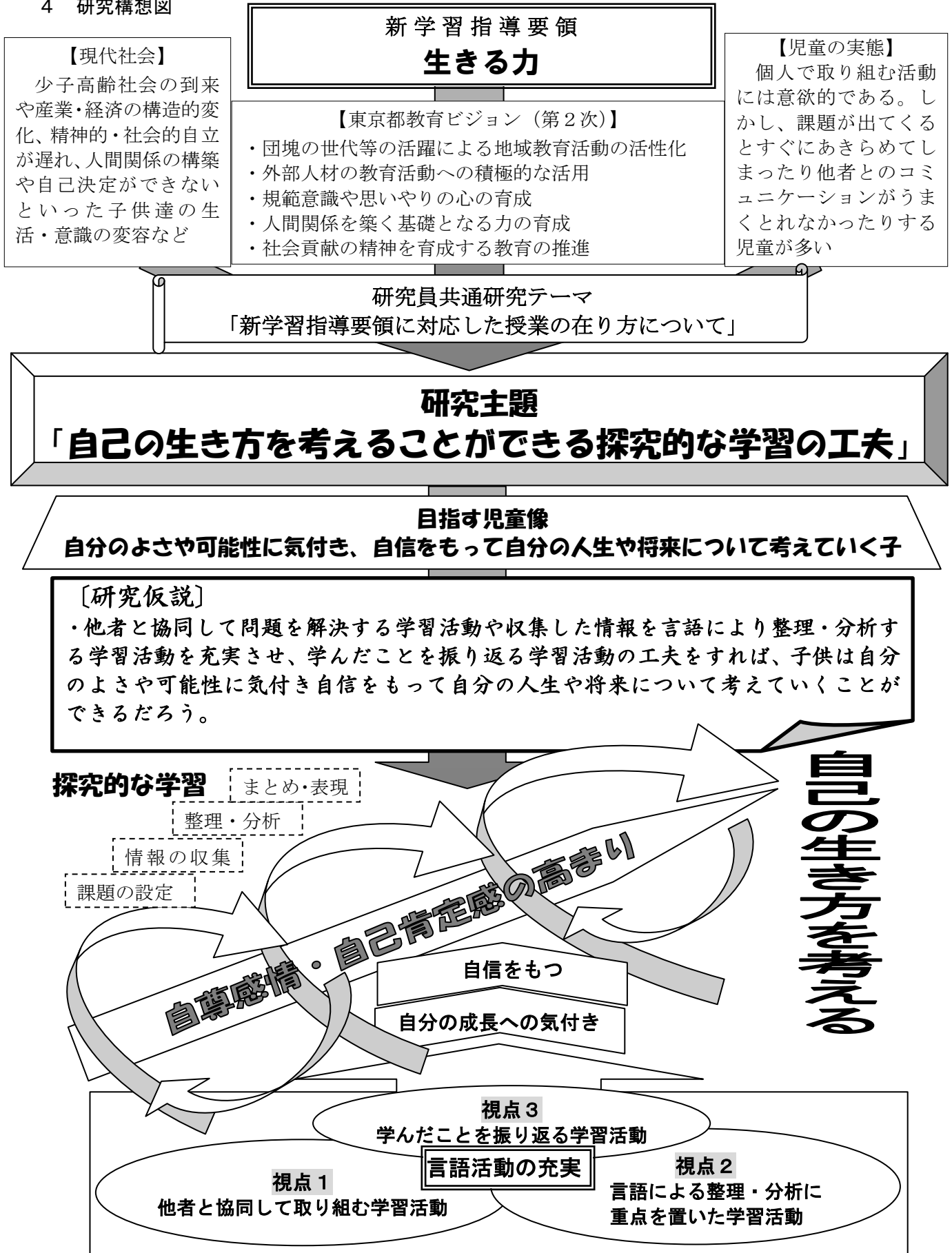
多様な整理・分析方法の例示と、目的にあった適切な方法の指導

（カードを活用した KJ 法的な手法、ランキング付け、グラフ、マップ、ベン図など）

③ 学んだことを自己と結びつける振り返り

学習で身に付いた学び方やものの考え方を記し、自分自身への振り返りにつなげるシート

4 研究構想図



Ⅲ 研究方法

<p>1 基礎研究</p> <p>(1) 研究主題に関わる言葉の定義付け</p> <p>(2) アンケートによる「総合的な学習の時間」に対する教員・児童の実態調査及び平成 15 年度との比較</p> <p>(3) 自尊感情を高める指導の工夫について</p> <p>(4) 「自己の生き方を考える」についての発達段階による違い</p> <p>(5) 東京の教育 2 1 等の先行事例研究</p>	<p>2 教材開発的研究</p> <p>(1) 部員による検証授業</p> <p>「他者と協同する学習活動」</p> <p>「言語による整理・分析」</p> <p>「学んだことを振り返る学習活動」</p> <p>以上の 3 点を必ずカリキュラムに組み込んだ。さらに、探究の過程を複数回行えるような計画を立てた。</p>
--	---

(1) 基礎研究から

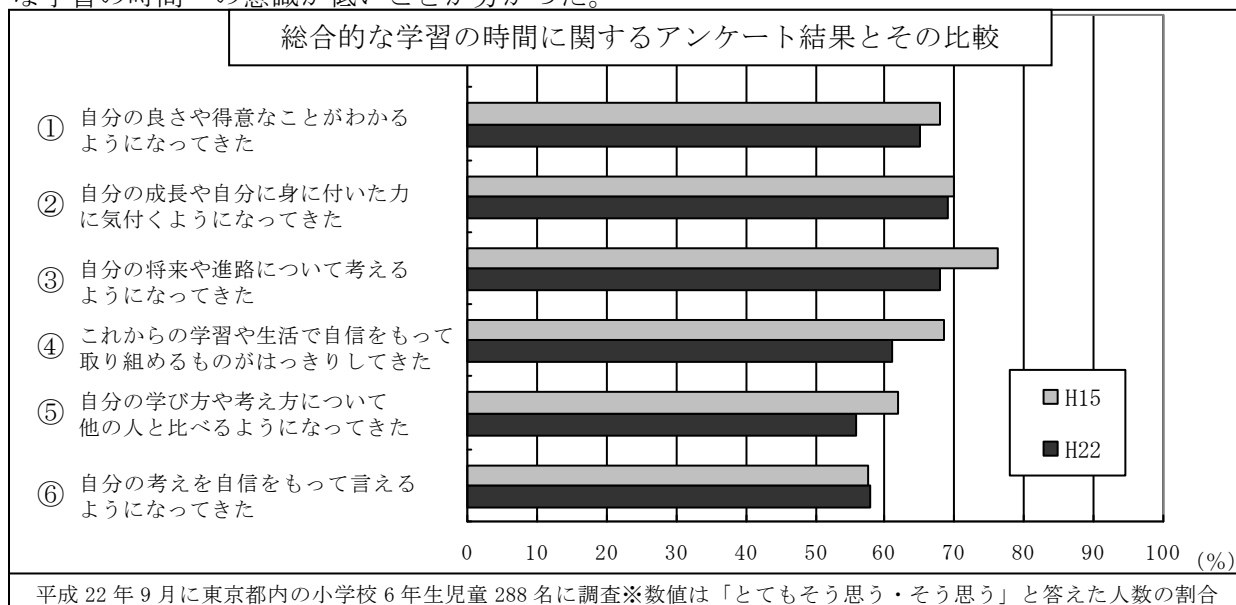
平成 20 年 1 月の中教審答申にもある「総合的な学習の時間の趣旨、理念が十分に達成されていない状況」について調べ、「探究的な学習」と、総合的な学習の時間の目標を構成する五つの要素の中の一つである「自己の生き方を考えること」がうまく成立していない現状を把握するため教員と児童にアンケートを行った。さらにそのアンケート結果を総合的な学習の時間完全実施の翌年である平成 15 年度に行われたものと比較することによって、7 年間における児童の変容を捉えることができるのではないかと考えた。

平成 22 年度のアンケート結果を見ると、アンケート⑤「自分の学び方や考え方について他の人と比べ」たり、アンケート⑥「自分の考えを自信をもって」表現したりできるようになってきたと感じている児童の割合は 60% 以下である。

このアンケートは平成 15 年度にも同様のものが実施されている。比較すると、平成 22 年度の結果は 7 年間の間にほとんどの項目において減少している。

教員を対象とした、総合的な学習の時間への意識や実施状況に関するアンケート結果からは、「児童は自己の生き方を考える事ができるようになっている」という質問項目に対し、「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合は 31% にとどまっている。

以上のことから、中教審答申にもある「総合的な学習の時間の趣旨、理念が十分に達成されていない状況」にあること、7 年間での子どもの変容がみられないこと、また、教員の総合的な学習の時間への意識が低いことが分かった。



(2) 教材開発的研究から

次ページ以降の事例を通して具体的に述べる。

実践事例 1 本研究の基本実践例（第6学年）

1 単元名 「未来のA市計画委員会」

2 単元目標と評価

(1) 単元の目標

- ・まちの人がA市についてどんな思いや願いをもっているのか知り、皆が自分の町をよりよい町にしたいと願っていることに気付いて、自分も地域の一員であるという自覚をもつ。
- ・A市が現在の良さを保ちながら、より良いまちになるためにはどうしたら良いのかについて認識を深めると共に、その実現のために自分の生活を振り返り、主体的・日常的に行動することができる。

(2) 評価規準

コミュニケーション能力	情報活用力	自己に気付く力
☆市役所や商店街の人などと、相手に応じた方法で関わることができる。 ☆同じことや似たことを調べているクラスメートと積極的に情報を交換することができる。	☆自分の設定したテーマに沿って情報を収集することができる。 ☆収集した情報を、他の情報と比較・関連付けをするなど、適切な方法で整理・分析することができる。	☆自分の住む地域やそこに住む人々の存在に気付き、自分が地域社会の一員であることを自覚することができる。

3 研究主題に迫るための手だて

視点1 他者と協同して問題を解決する学習活動

○ インタビューによる情報収集

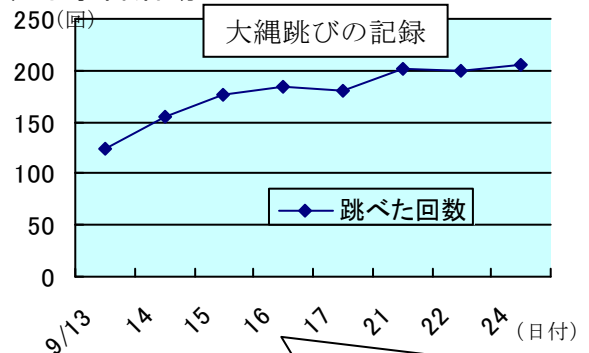
本単元は、多くの地域の人と関わることのできる単元である。クラスメート・保護者・本校教職員と関わり合い、協力して学習を進めるのはもちろん、駅や商店街でのインタビューなどを通して、普段あまり関わることのない、様々な性別・年齢・職種の地域の人からも情報を得ることができる。インターネットや書籍のように整理されていない、「生の声」を聞くことは、情報を得られるだけでなく、そこに住む人々の思いや感情に触れることができる。これらのことが児童の人間関係を豊かにすることにつながり、地域を見つめ直し、今後の生き方を考える機会になると考えた。

視点2 収集した情報を言語により整理・分析する学習活動

○ 情報の種類に応じた多様な情報整理手段の例示

整理・分析の場面においては、以下のような整理の方法を事前に示し、児童が自分で適したものを選べるようにする。

国語科「言葉のおもしろさ大研究」において、整理・分析する際に、例を示すと共に、作業の時間を十分にとるなどの工夫をした。また、毎日記録をつけている「長縄跳び」の跳べた回数のグラフ化、食育指導の際に好きなお菓子のランキング化・マトリックス化な



【折れ線グラフ】

クラスで毎日取り組んだ長縄跳びの回数を毎日記録し、整理した。児童が分析した情報は「初めのうちはどんどん上手になったが、後半はゆっくり上手になった」。

ど、身近な情報を整理し、そこから何が読み取れるのか、分析する手法を身に付けた。整理の方法によって分析される情報が違うことを示し、様々な整理方法を試行錯誤しながら、選べるようにした。

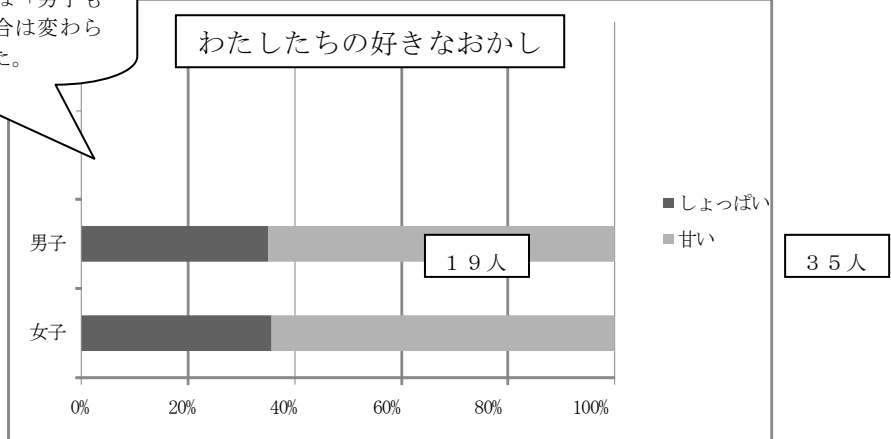
【マトリックス表】
食育指導の中で、児童の好きなお菓子は何かを調べ、さらに、性別・味の4つの観点をもって情報を比較した。

【帯グラフ】
上記の好きなお菓子調べの結果を帯グラフ化したものも示した。児童からは「男子も女子も、好きなお菓子の味の割合は変わらない」という分析結果が得られた。

わたしたちの好きなおかし

	しょっぱいお菓子	甘いお菓子
男子	のしか ポテトチップス (7) サラミ するめ (2) スナック菓子 (4) ポップコーン ビーフジャーキー せんべい	チョコとクッキーのお菓子 (5) チョコレート (3) ゼリービーンズ クッキー あめ (7) ガム (7) ふがし グミ (3) 水あめ ゼリー (2) アイス (3) キャラメル
	18人	35人
女子	スナック菓子 (7) うめぼしのシート ポテトチップス (8) せんべい (2) 干しうめ	チョコとクッキーのお菓子 (4) チョコレート (3) ミントタブレット ガム (5) ラムネ (3) グミ (3) あめ (7) ドーナツ アイス (6) ゼリー ソフトキャンディ

わたしたちの好きなおかし



視点3 学んだことを振り返る学習活動

○ グループ内のオリジナルチェックシート作成
学習活動によって得た情報や、考えたことを記録し、ポートフォリオとして自分の変容や活動を振り返ることができるようにする。また、小単元2のグループ活動の際は、グループごとに3段階評価のチェックシートを作り(A…とても良い、B…良い、C…もう少し)、評価のポイントを決める。具体的にどのように取り組むことができれば良いのかを児童が決めることによって、自分たちのめあてや努力したことが明確にわかるようにした。

発表準備中		
	情報収集	情報交換
A		
B		
C		

発表時		
	態度	内容
A		
B		
C		

4 単元の計画（全 20 時間）

時数		学習活動	・指導の工夫 ☆評価
① まちの現在の様子を知らう	課題の設定 1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都の市区町村の『住みたいまちランキング』『住宅・不動産情報ポータルサイト HOME'S 調べ』から、上位の市区町村にはどのような特徴があるか知る。 ○ A市の現状を考え、A市の良さを知ってもらうには、どうしたらよいか、仮説を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A市以外の各地域については、特徴をわかりやすくつかめるようにするため、あらかじめまとめたものを示す。 ☆ ランキング上位の市区町村の様子から、仮説を考えることができる。（ノート、発言） ☆ 情報収集の計画を立てる。（ワークシート）
	情報の収集 2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家の人、近所の人にインタビューをする。 ○ 保護者や教員についてもらい、駅前で、まちに住む人にインタビューを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報と共に思いや願いを感じ取るため、インタビューによる情報収集を行う。 ☆ 進んでインタビューし、情報を集めることができる。（ワークシート・観察）
	整理・分析 5 6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ インタビューの結果を様々な方法で整理する。 ○ 整理された情報を分析し、何が読み取れるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの市民(20代～80代の男女300人)にアンケートの情報を整理する必然性を作りだした。 ・ 整理の方法によって、分析される情報が異なることに気付かせるため、様々な整理方法を示す。 ・ 何を明らかにしたいのかを考えて活動できるように助言する。 ☆ 適した整理の方法を考えることができる。（ワークシート・観察） ☆ 整理した情報を分析することができる。（ワークシート）
	まとめ・表現 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に得た情報をグループで更にKJ法的手法で整理・分析し、それを基に、A市がランキング上位となり、多くの人に受け入れられるまちとなるために必要なことをまとめる。 ○ A市役所の都市計画課の人の話を聞き、まちづくりを考える際に必要な知識を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりの基本的な考え方からそれないようにするため、都市計画課の人の話も合わせて考えるよう伝える。 ☆ 情報を組み合わせ、まとめることができる。（ワークシート）
② 未来の理想のまちマップを作ろう	課題の設定 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題作りのため、前時のまとめで考えた「たくさんの人にA市のよさを知ってもらうために必要なこと」について簡単に調べ、情報を集める。 ○ 「たくさんの人にA市のよさを知ってもらうために必要なこと」を集計し「農業・教育・医療・商業・自然・交通・おしゃれ・ふれあい」などの8観点に分け、詳しく調べてみたいことを考える。 ○ 調べる観点の異なる児童同士でグループを作り、グループごとに未来のA市のコンセプトをつくと共に今後の活動計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ分けをスムーズに行えるよう、調べたい観点を第3希望まで考えさせる。 ・ 担当観点の情報収集に集中できるようにするため、各グループの人数は7～8人とする。 ・ 観点の異なる児童同士でグループを作ることににより、各担当者が責任感とやりがいを得られるようにする。 ☆ 前時の情報を基に、未来のA市のコンセプトを考えている。（ワークシート）
	情報の収集 10 11 12 13 14	<ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドワークを行い、実際の狭い道路の様子や、公園の様子を視察する。 ○ 市役所・商店街の方の話を聞く。 ○ 異なるグループだが、似た観点で情報収集をしている児童同士での情報交換会を行う。 ○ 掲示板を使った情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細な情報と共に、思いを感じ取るため、外部の方と電話や手紙によって関わる。 ・ パンフレット、本、インターネット等を活用して情報を集める。 ・ 調べる担当箇所と同じ児童同士での情報交換会を行い、共有できるようにする。 ☆ かかわりを通して情報を集めることができる。（ノート・観察）
	整理・分析 15 16	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに集めた情報を比較したり、関連づけたりして整理・分析する。 ○ 未来のA市のコンセプトに合うよう、情報を組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長所・短所分析や、難度分析などの手段を示し、実現可能なA市像を作るよう伝える。 ・ 情報を整理・分析し、ワークシートなどを使って明確化させる。 ☆ 適した整理・分析の手段を用いている。（ワークシート）
	まとめ・表現 17 18 19 20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未来の理想のA市マップを作る。 ○ 発表会を行い、市役所の方や保護者など、お世話になった方を中心に外部の方を招いて発表会を行い、どの提案が良いと思ったかを投票してもらい、競い合う。 ○ 市長に一市民として、研究結果を提案する。 ○ 自分がどのように関わられるか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わりやすく、わかりやすくするためにイラスト、表、グラフなどを使い、発表の方法を考えさせる。 ☆ 今後の自分の生き方・人との関わり方について考えることができる。（ワークシート）

5 児童の活動及び考察

○学習を通して、自分たちの住んでいる A 市 に対しての興味や、進んで関わろうという気持ちが高まった。

・A 市の人にインタビューをすることで、児童は関わり合いそのものを楽しむことができた。
 ・主体的に関わることでできる環境の設定をすることで、児童は集めた情報を価値あるものとして大切に扱い、熱心に整理・分析することができた。

○様々な整理・分析の手段を示すことで、多くの自分の考えをもち、深めることができた。

・既習の整理の方法を用いて膨大な量の情報を整理し、世代や性別に着目した分類や比較を行うことができ、それぞれの世代や性別の傾向を深く分析することができた。

・グラフやマトリクス法など、整理方法については日常的に活用する場面を作り、児童が使いこなせるようにする必要がある。

○児童が自分達で用意したチェックシートを使うことで、より確かな自己評価につながった。

・改善のポイントが分かりやすく、次時の目標を立てやすかった。

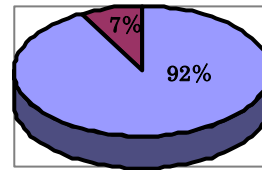
・授業が進むにつれ、チェック内容を児童が改良しようとする動きが見られ、より良い目標を立てることができた。

【児童の作成したオリジナルチェックシート】

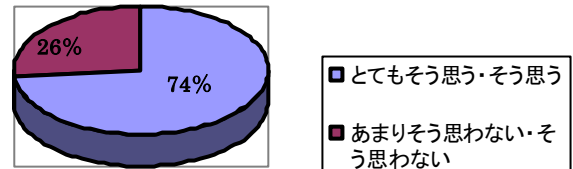
発表時		
	態度	内容
A	○相手を見て話す。 ○メモを見ないで話す。 ○つかえない。 ○はっきり聞こえる声。	○相手が興味をもって聞いてくれている。 ○質問されたことに答えることができる。 ○自分のグループの良さが伝わっている。 ○発表の役割分担がはっきりしている。
B	○メモを見ながら話す。 ○少しかえる。	○質問されない。 ○同じ人ばかり発表している。
C	○声が小さい。 ○発表中に相談する。 ○つかえることが多い。 ○相手の方を見ない。	○相手が興味をもって聞いていない。 ○自分のグループの良さが伝わっていない。 ○時間を過ぎてしまう。

本単元の学習を通して、

① 以前よりも A 市のまちに興味をもつようになった

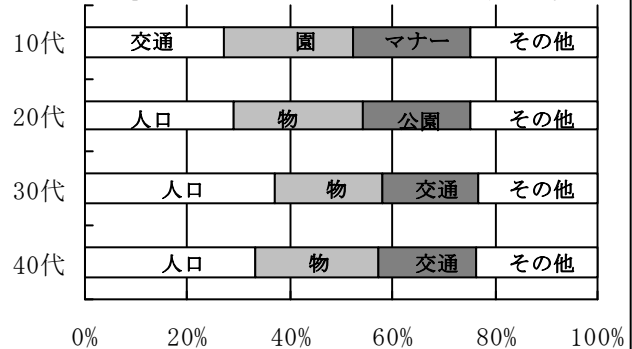


② A 市のまちに進んで関わろうという気持ちが育った



児童の整理・分析例 1

「帯グラフ」…各世代の願い・希望を帯グラフ化した。



【分析結果】人口・買物に関する希望が多いが、駅前にデパートなどの大きな店を できれば つ共解決できて一石二鳥。

児童の整理・分析例 2

「マトリクス表」…世代を二つに分け、良いところや願い・希望を分類した。

	10代～40代 50代	代～80代
と良いところ	①自然が多い ②病院が多い ③公園が多い	①自然が多い ②商店街がにぎやか ③病院が多い
希望い・	①人口が増えてほしい ②広い公園がほしい ③大きな店がほしい	①人口が増えてほしい ②店が増えてほしい ③商店街がにぎやかに なってほしい

【分析結果】

どちらの世代も自然が多いところが長所だと考えている。買物についての願い・希望も同じく両方の世代から出ている。

実践事例 2 視点 1 「他者との協同」に重点をおいた実践例（第6学年）

1 単元名 「発信しよう日本を 受信しよう世界を」

2 単元目標と評価



(1) 単元の目標

- ・留学生を中心とした様々な相手との関わりの中で日本や外国の文化に対する理解を深め、国際社会で異なる文化の人々と共に生きていこうとする姿勢を示す。
- ・外国の文化に興味・関心をもち、適切な資料を収集、整理、分析しながら、それぞれの文化のよさや違いを探る。

(2) 評価規準

コミュニケーション能力	情報活用力	自己に気付く力
☆外国に慣れ親しんだ人や外国の人などと、相手に応じた方法や手段で関わるができる。 ☆体験的な学習を通して、自分の考えや意思を伝えるだけでなく異なる意見や他者の考えを受け入れるなど相手を理解したり、尊重したりすることができる。	☆外国に慣れ親しんだ人や外国の人などとの関わりを通して、分量や内容を見極めながら情報を収集していくことができる。	☆外国に慣れ親しんだ人や外国の人などとの関わりを通して、自分(自文化)に誇りをもったり、相手(他文化)を尊重したりすることができる。 ☆体験的な学習を通して、日本や外国の文化に込められたよさや違いを意識しながら、身近な生活を送っていくことができる。

3 単元の概要【全49時間】

	外国文化を知ろう 【10時間】	外国文化を紹介しよう 【16時間】	日本文化を紹介しよう 【14時間】	世界の輪を広げよう 【9時間】
①課題の設定	○外国には日本にはない文化があることを知る。 (1時間)	○国によってなぜ多様な文化があるのか考える。 (1時間)	○外国のような文化が、昨年学んだ(琴・相撲・茶道・能・俳句・剣道)以外にも日本にあるか考える。 (1時間)	○A日本語学校とのさらなる交流計画を立てる。 (1時間)
②情報の収集	○グループで外国の文化をインタビューし、情報交換をする。 (3時間)	○A日本語学校からの手紙を知る。 ○A日本語学校との交流を図り、インタビュー活動や体験活動を通して、外国の文化に慣れ親しむ。 (11時間)	○A日本語学校との交流を図り、インタビュー活動や体験活動を通して、日本の文化を調べ、グループで情報交換をする。 (9時間)	○A日本語学校と交流できる活動を考える。 (2時間)
③整理・分析	○インタビューして調べた外国の文化を、整理分析する。 (2時間)	○留学生の国の文化と日本の文化の違いを考える。 (1時間)	○日本の文化と留学生の国の文化の違いを考える。 (1時間)	○グループ毎で交流に必要な資料や材料を取捨選択し、計画を立てる。 (3時間)
④情報の収集整理	○自分で興味・関心のある外国の文化を調べる。 (3時間)			
⑤まとめ・表現	○調べた外国の文化をまとめ、学級で紹介する。 (1時間)	○留学生の国の文化に込められたよさを発表する。 (3時間)	○日本の文化に込められたよさを発表する。 (3時間)	○A日本語学校と交流をする。 ○A日本語学校との交流を振り返る。 (3時間)

4 研究主題に迫るための手だて

○他者と協同して取り組む学習活動

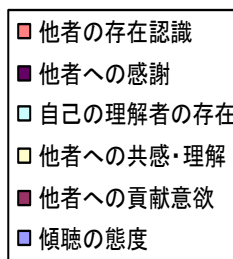
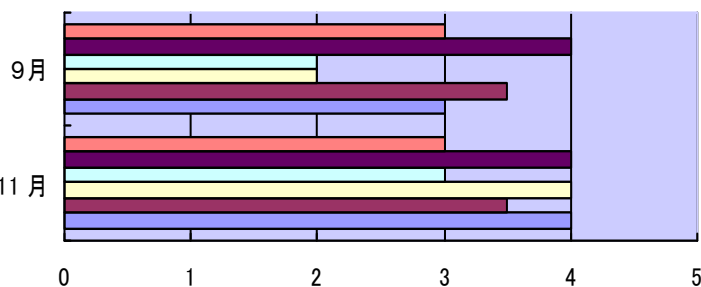
(様々な人と関わる、「生きた」学びを繰り返し通す場の設定)

- ・課題の設定から多様な人と関わる活動を行うことで、他者の多様な考えや価値観を知る。そこから自分の視野が広がるとともに、相手の立場を尊重しつつ、自分と異なる考えを受け入れていく土壌が育ち、自己の生き方を考える力が熟成していくと考えた。

5 児童Aの変容（本時まで）＜他者との関わりが未熟な観察対象児の活動の経過＞

学習活動	・児童Aの様子 ☆Aの声
○グループで外国の文化をインタビューし、情報交換する。	・地域に出て、グループで外国の人に声をかけるが、積極的には質問はできない。繰り返すうちに外国の人に関わろうとする姿勢が見られ、質問ができるようになる。 ☆最初はドキドキしていたけど、慣れてくると話せるようになった。少しだけ外国の人と話せてうれしかった。
○興味・関心のある外国の文化を調べる。	・インタビューで得た情報をカードにまとめ、国別やカテゴリーごとに整理分析する。得た情報の中でも全く知らないヨルダン国を選択し、挑戦する意識をもってプレゼンテーションソフトにまとめる。 ☆ヨルダンの人は死海が自然文化といていたが、調べていくうちに、それは違っていた。自分の知らない驚くことがたくさんあり、調べられるか迷ったけど知らない国を調べてよかった。いつか行ってみたいとも思った。
○A日本語学校との交流を図り、インタビュー活動や体験活動を通して、外国の文化に慣れ親しむ。	・Bグループの一員として、体験活動やインタビュー活動を通して留学生と4回（8時間）繰り返し交流する。始めは距離をとり会話できないが、交流を繰り返すうちに目を合わせ、会話や遊ぶ中で笑顔も見せ始める。交流する日時を担当に尋ねるなど、会う機会を楽しむにす〔留学生も日本語学校のカリキュラムの一環として、課題解決学習をする〕。 ☆初めて会ってみると緊張して沈黙してしまった。話せなくて少しショックだった。 ☆タピオカが「カエルの卵」という話を聞くなど、楽しい話がいろいろできた。もっとこれからもいろいろな話を聞きたい。
○外国文化に込められたよさを発表する。	・Bグループの一員として、食文化を発表。内容をまとめていくため話合いを繰り返すことが大切と実感する。実物を取り入れたり、プレゼンテーションソフトを取り入れたり、グループで話合いを繰り返すうちに、リーダーシップをとって進めていく場面も見られるようになる。 ☆グループ内で意見が合わないこともあった。でも、話し合っていくうちにみんなが納得できる発表になった。他のグループを見てても、みんなが協力して話し合ってたからこそできたと思う。

（児童Aの「関係の中での自己」の変容）



A 日本語学校交流前（9月）から交流継続後期（12月）までの、児童Aの関係性思考の変容

6 考察

「自尊感情測定尺度（東京都版）」を活用

（子供の振り返りの記述から）

- ・生まれた国やその文化が違って一緒に楽しむことができる。日本人、外国人ということは関係なく接することができる。
- ・同じ文化を調べていても、友達と文化に対する考え方が少しずつ違っていた。いろいろな人の考えを知り、自分の中で整理していくのはこれからも役立つ。
- ・交流を重ねることで、外国の人とも自分から話せるようになった。こういう機会があったからで、前の自分ならばできなかった。

- ① A 日本語学校の留学生を中心とした多様な人と協同して取り組む場を繰り返し設定し、課題をシェアリングしたことや、視点を明確にし、常に自分を含めた対象を自己との関係で見つめ振り返る時間を確保したことで、自他を認める姿勢、関わりの大切さなどに気付く児童が増えた。
- ② 本校6年生と留学生の混合した少人数グループを構成し、課題解決にむけた学習活動を展開していくことで、自信をもってコミュニケーションを図っていく子供が増えた。
 - ①では、ポートフォリオで8割の児童が自分の成長や視野の広がり等、自己の気づきに触れており、②では、9割の児童が自尊感情データやコミュニケーションの取り方での向上を示していることから、自己の生き方を考える学びを展開していくことができたと考える。

実践事例3 「情報の整理・分析」に重点をおいた実践例（第3学年）

1 単元名 「とび出せ探検隊！ 安全・安心な町づくりを目指して」

2 単元目標と評価

(1)単元の目標

- ・安全・安心な町づくりのために、自分ができることはないか考えて、友達や保護者、地域の人と協同して活動に取り組むことができる。
- ・集めた情報を分類・整理して、分析する方法を身に付けることができる。

(2)「情報の整理・分析」段階の評価規準

コミュニケーション能力	情報活用力	自己に気付く力
☆安全・安心な町づくりのためにどのようなことをしたらよいか、友達や地域の人、ゲストティーチャーの意見を聞いたり、話し合ったりすることができる。	☆情報収集で得られたことを生活安全・交通安全・災害安全の三つに分類し、整理して、自分なりの考えをもち、問題の解決方法を考えることができる。	☆自分の住んでいる地域の安全・安心な町づくりのために、自分で何ができるか考えたり、やってみようと行動したりすることができる。

3 単元の概要【全21時間】

	①ご近所お困り調査隊【4時間】	②安全マップ作りをしよう【6時間】	③とび出せ、安心安全隊【11時間】
課題の設定	○自分が家の周りや通学路で心配なことや困っていることは、ないか出し合う。 ○家族や地域の方は、地域で困っていることはないか考える。	○地域安全マップの考え方を知り、自分の家の近所の課題を見付ける。	○地域の安全に関する三つのカテゴリから自分の課題を選ぶ。 「生活安全」・「交通安全」・「災害安全」
情報収集	○家族や近所の人に家の周りで困っていることはないか、インタビューをしよう。	○地域安全マップ作りのフィールドワークに行く。 ○地域安全マップを作る。	○自分の課題をもって、もう一度フィールドワークを行い、インタビューしたり、観察をしたりして情報を集める。
整理・分析	○インタビューしたことを整理しよう。 ○家族や近所の方がどんなことで困っているか考えよう。	○地域安全マップを見て、気がついたことを出し合う。	○調べたことをもとに安全・安心な町にするために自分たちは何ができるかを話し合う。
まとめ・表現	○家族や近所の方がどんなことで困っているか発表し、どうしたらよいか考えよう。	○地域安全マップを作って考えたことを発表する。	○発表の仕方を考え、発表のまとめを行う。 ○友達や保護者に向け発表をする。 ○報告会を行う。

4 研究主題に迫る手立て

○言語による整理・分析に重点を置いた学習活動

探究の過程の「情報の整理・分析」のやり方を指導し、身に付けさせる。

- ①家族や近所の人にインタビューしたことをメモしたことをカードに書く。
(カードに書くことで整理しやすくする。)
- ②キーワードからカテゴリを見つけ、分類していく。
(キーワードは、児童に考えさせた。しかし、今回は、「安全教育」の用語「生活安全」「災害安全」「交通安全」を使用した。)
- ③分類した情報を見直す(全体を通して、どのような特徴があるか、考える。)
- ④問題の解決方法を考え、自分たちの意見を加え、分析する。

5 児童の振り返り

情報収集	<p>○毎日生活している家の周り、通学路、遊びに行く所などで困ったことや心配なことはないか、調べる。</p> <p>○家族や地域の方が家の周りで困っていることはないかインタビューする。</p> <p>○インタビューした結果を見て、考えをもつ。</p>	<p>・インタビュー結果をワークシートに記入して、発表させる。</p>
情報の整理	<p>○一人一人が集めた情報をクラスでまとめるために、インタビューしてきたことをカードに書く。← 整理①</p> <p>○黒板に羅列して掲示し、見やすくするにはどうしたらよいか考える。(←写真①)</p> <p>○分類するためのキーワードを探す。 ・交通安全 ・災害安全(防災) ・生活安全(防犯)</p> <p>○キーワードを基に分ける。←整理②</p> <p>○自分のもっている情報を整理する。(←写真②)</p> <div data-bbox="529 586 810 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真② ワークシートで各自の情報を、整理・分類し、分析した。</p> </div> <div data-bbox="836 586 1161 676" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>写真① 分類するためのカテゴリーを示し黒板で分類の例示</p> </div>	<p>・情報を整理する必要性を感じさせるために、未整理のままの掲示を見せる。</p> <p>・生活安全、交通安全、災害安全の三つの視点を提示し、整理しやすくさせる。</p>
情報の分析	<p>○整理した表を基に自分の考えを書く。</p> <p>○集めた情報を整理することの大切さを振り返る。 ・整理すると見やすくなる。 ・整理すると考えを出しやすくなる。</p>	<p>・友達の整理の仕方を振り返り、整理することの良さに気付かせる。</p>

6 考察

○初めて体験した「情報の整理・分析」

- ・「歩道を自転車がスピードを出して通るのが心配」「公園にごみが散らばっているのきれいにしたい」というようなインタビュー結果を各自が収集していた。そこで、集めた情報を分類し、整理し、その後自分の考えをもって分析する手順を指導した。「交通安全」「災害安全」「生活安全」のカテゴリーを提示して、分類の仕方を指導した。分類することで、情報が見やすく整理されたことに、児童が気づき、そこから自分の考えを導くことができた。
- ・整理・分析は、いろいろな方法があることを知らせ、それぞれを学習することが大切であり、今回は一例を示したにすぎなかった。今後6年生までの4年間で計画的に整理・分析する方法を学習する計画を立て、発達段階にあわせて、既習したものを実際の生活の中でいかに活用していくか学ばせ、自己の生き方を考える一助となるようにしたい。

○保護者、地域の方と共に作る地域参画型授業

- ・友達や地域の方と共に活動する中で、地域の安全を見つめなおし、問題意識をもち、意見交換ができたり、立場の違う人の思いを受け止めたりすることができた。

○自己の生き方について考えるきっかけ

- ・ワークシートに学習の振り返りを書かせることで、学習内容を再認識し、何が身に付いたか、できるようになったかを自覚でき、自己の成長に気付くことができた。

○探究的な学習の展開

- ・全体を三つの小単元で構成することで3回の探究の過程を経たが、それが必ずしも児童の思考の連続性とは結び付かなかった。課題意識がもてず、自分の考えがもてなかった児童へは、課題に対して驚いたことや疑問に思ったことなどを引き出す支援が必要だった。

実践事例 4 視点 3 「学んだことを振り返る学習」に重点をおいた実践例（第 6 学年）

1 単元名「ラオス人民民主共和国から世界を広げよう」

2 単元目標と評価


(1) 単元の目標

- ・身近にいる人々で、日本以外の国に居住したことがある人との交流を通しながら、問題解決や探究活動を協同して行い、国際社会への理解を深める（コミュニケーション能力）。
- ・問題解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり、調査したりしながら、必要な情報を収集し、整理・分析する（情報活用力）。
- ・自分の経験と学習活動して得た情報を関連付け、自分のこととして受け止め、今後の自分の生活に生かしていこうとする（自己に気付く力）。

(2) 「学んだことを振り返る」段階の評価規準

コミュニケーション能力	情報活用力	自己に気付く力
☆ゲストティーチャーと積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 ☆自分と違う考えを受け入れ、他者の立場を尊重することができる。	☆自分が興味をもった他国のことについて本やインターネット、さらには友達やゲストティーチャーと交流することを通して、情報を収集し、適切な方法で整理・分析することができる。	☆学習したことをもとに、自国と他国の共通点や相違点から、それぞれの良さを見つけ、自分の将来の生き方につながることを探し、文章にまとめることができる。

3 単元の概要【全 24 時間】

	自分たちのことやラオスのことについて考えよう【17 時間】	他の国についても調べ、自分の世界を広げよう【7 時間】
① 課題の設定-1	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生のときに、ゲストティーチャーとして来校した方々が、ラオスでボランティア活動してきたことを知る。 ○活動してきた熱い思いを知るが、未知であるラオスの生活の様子に興味をもった。 ○自分を振り返り、日常生活の中で児童の大切なものとラオスの人たちの大切なものが何であるか考える。（ブレインストーミングでアイデアを出す。） ○自分たちの大切なものを班で整理する（KJ 法的な手法で整理する。）。 ○自分たちが大切にしているものを再認識し、ラオスの子供たちの大切にしているものを考える。 ○ラオスについて調べたいことを自ら考える。（4 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラオスのことから発展して、自分の調べたカテゴリーや興味をもったことで、世界のことについて調べたいことを考える。（1 時間）  <p>ダイヤモンドランキン</p>
① 課題の設定-2	<ul style="list-style-type: none"> ○ラオスの多くの子供たちが大切にしていたものが花だったことを思い出し、興味を広げる。 ○生活する上で大切なものを重要度によって、班で整理する（ダイヤモンドランキンで整理分析する。）。 ○ラオスについてもっと知りたいことを考える。（1 時間） 	
② 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○ラオスについて調べたいカテゴリーを決め、調べ学習をする。 ○本やインターネットで調べた情報を持ち寄り、情報交換し、共有する。 ○同じ興味をもった子供たちで集まり、資料を調べる。（2 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味がある国を決める。 ○興味のある国についての調べ学習をする。 ○同じ国で、興味をもった子供たちで集まって、調べる。（1 時間）
③ 整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ内容を調べている子供たちでグループになり情報を整理する。 ○ラオスについて調べた情報をお互いに紹介し合う。 ○調べたことから分かること、大事なことを箇条書きにし、整理する。（共通点や相違点を整理・分析する。） ○グループになり、課題を話し合い、意見を共有する。 ○自分の意見や理由を入れて、ラオスの文化のよさや、日本との違いを分かりやすく言語化してまとめる。（2 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ国を調べている子供たちで班になり、情報を整理・分析する。 ○自分の将来の夢と関わっているところを調べる。（2 時間）
② 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人で、ラオスに関わった人がいないか調べる。 ○学校に招待するにはどうしたら良いか考える。（1 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人で、多くの国と関わって生きてきた人がいないか調べる。（1 時間）
③ 整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でラオスに関わっていたゲストティーチャーに、自分たちで調べたラオスのことを聞いてもらう。 ○ラオスでの NPO 活動の内容を聞く。 ○活動の内容やその人の考え方を知り、文にまとめる。（2 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べた内容をグループごとに整理し、発表する。 ○世界で活躍してきた人の思いを聞く。（1 時間）
② 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○近くにラオス人やラオスに長く住んでいた日本人がいないか調べる。 ○学校に招待するためラオスと関係のある機関に手紙を書く。（2 時間） 	

④ 整理・ 分析	○ラオスでNPO活動をしてきた人の内容を盛り込んで、発表資料を整理・分析し、文にまとめる。 (1時間)	
⑤ まとめ 表現	○自分たちで調べたラオスのことをグループごとにまとめ、発表する。 ○ラオス人とラオスに長く住んでいた人から話を聞き、ラオス文化についての理解を深める。 ○学習方法と体験活動で学んだことを振り返り、文にまとめる。 (2時間)	○他国文化を調べることで、気付いたことをまとめる。 ○日本に住んでいる自分を見つめ直し、自己の生き方を考え、まとめる。 (1時間)

4 研究主題に迫る手だて

○学んだことを振り返る学習活動

ラオスと関わった人やラオス人と交流する学習を取り入れ、学んだ内容や関わった人の考え方から、自分のこれからの生き方や成長の様子などを逐次、文章に記録していく。新たな課題を見つけて、探究的な学習をする中で、文章に記録したことを読み返すことで、振り返り、自己の生き方を考えていく力につなげる。

5 児童の振り返り

○KJ 法的な手法により、考えを整理・分析

- ・人間が作れるもの作れないもの、お金で買えるもの買えないもの、精神的に大切なものそうでないものなどで、整理ができた。
- ・班ごとに友達と交流し合っ、分類を行った。



【KJ 法的な手法による分類】

KJ 法的な方法を使うことで、頭の中だけで考えたことを付箋紙に書き出し、整理しやすくなった。

ダイヤモンドランキングで大切なものの順位付けができた。

私はKJ法的方法を字んて思、たことかてくさんあります
 ますは、頭の中だけ考えていては、よくわからなくは、てしまうので、紙(はせん)にたくさん書き出して、整理してまとめたほうがよいと、これのおかげで
 自分か何を考えているのかかみえてきました。ダイヤモンドランキングでも、順位を決めたことか何か大切か、何を一番にすればよいのかよくわかりました。また、「比較」ということかとても大切だと思、います

私は、この交流をきっかけに、今はできないけど、世界の人々を元気にして、笑顔にしてあげられるかんこしてになりたいと思、いました。
 そして、大きな力を持っていない今でも、エッセイを書いたり、何かやりに立つことをしていきたく思、います。

自己を振り返り、世界の人々にできることを考えていきたいと自己の生き方を考えている。

【児童の変容の分かる文章】

6 考察

- ・ブレインストーミングや KJ 法的な手法、ダイヤモンドランキング、共通点と相違点をまとめる思考ツールを使うことで、自分が考えていることを他と関連付けしてグルーピングしたり、重要度に応じて整理・分析したりして、自己の生き方や成長の様子を逐次、整理して文章にまとめることができた。但し、整理・分析すること自体が目的になってしまい、自己の生き方を考えていく力にまで、至らない児童もいた。その児童には、個別に自分の経験を振り返らせる声かけなどが必要であった（言語活動の面）。
- ・ラオスでボランティアをした方々や地域の人でラオスに関わりのある人、ラオスの留学生や青年海外協力隊でラオスで活動をしてきた人と交流する学習を取り入れることで、関わった人の考え方を知り、自分たちの生活を振り返り、自己の生き方を考えていく力につながった（体験活動の面）。

IV 研究の成果と課題

1. 研究の成果

本部会では三つの手だてで研究を進めてきたが、検証授業を基にそれぞれの手だてについて以下の成果が読み取れた。

視点1 他者と協同して問題を解決する学習活動

人と関わる体験活動を積極的に取り入れる単元構成をすることによって、他者と考えを出し合いながら多様な情報が集められたり、異なる視点から整理・分析したりできた。また、他者と一緒に活動することで相手意識・仲間意識が生み出された。その結果、児童の学習の質が高まり、学級の学習の質を高めていくことにつながった。

視点2 収集した情報を言語により整理・分析する学習活動

教師が児童の収集した情報がどの程度かを把握し、何をどのように考えさせたいかを意識して情報に応じた整理・分析の方法を指導した。その結果、課題について児童が自分の考えをもつようになった。そしてその考えを基にまとめ発表した後で、自らの考えや課題を新たに更新することができるようになった。

視点3 学んだことを振り返る学習活動

毎時間ごと、探究の一過程が終わるごとに、学習で体験したことや身に付いた学び方やものの考え方をワークシートに記入させ、振り返らせた。また、単元終了時にも今までの学習で学んだことを児童に考えさせるようにした。こうした振り返りによって、児童は自己の成長に気付くことができた。そして、自分の人生や将来について考えることができるようになった。

以上のことから、このような三つの視点を入れることによって子供たちの社会と関わる力が向上し、関わり合いの中で得た多様な情報を多様な視点から整理分析することで科学的な見方ができるようになった。さらに、学んだことを自己の生き方につなげて考えていくことができるようになった。

2. 研究の課題

- ・探究の過程を1回だけのものに終わらせないようにするため、探究の過程を2回・3回と繰り返す単元構成を計画した。その単元で、児童の問題意識をどう発展継続させていくかが課題として残った。
- ・三つの視点に基づく学習活動を手立てとして研究したために、それぞれの手だての関係性について十分深めていくことができなかった。

平成22年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 総合的な学習の時間

地区	学 校 名	職名	氏名
渋谷区	神 宮 前 小 学 校	主任教諭	○萩原 忠幸
中野区	桃 花 小 学 校	主任教諭	◎大宮 実
町田市	南つくし野小学校	教 諭	吉岡 康裕
小平市	小 平 第 三 小 学 校	主任教諭	小菅 和子
清瀬市	芝 山 小 学 校	教 諭	藪田 洋士

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 指導主事 佐々木 由美子

平成 22 年度
教育研究員研究報告書

小学校 総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画

住所 東京都新宿区西五軒町 7-10

電話番号 (03) 5228-3451